

文教厚生常任委員会 行政視察研修

7月19日～20日、玄海町と荇田町に「学校給食の運営」並びに「学校給食センター視察」をテーマに行政視察研修を実施しました。

まず、佐賀県玄海町学校給食センターでは完全ドライ方式で1500食の調理能力を持ち、食器は強化磁器を県補助により当初から導入されていました。又、玄海町立値賀小学校を訪問し、実際の搬入と配膳状況を見学。低学年は食器の重みを考慮して、食器かごを2つにされています。

翌日は、福岡県荇田町立学校給食センターを訪問。学校給食の運営について視察しました。

食器については、平成15年から食器洗浄ラインに適合し、環境ホルモンの出ないと言われるポリエチレンナフタレート（PEN）に切り替えられておりました。（福岡県では強化磁器の

推進などは図られていない）

今回、行政視察した食器選定のメリット、デメリットとして、PEN樹脂食器は熱伝導率が低く、軽いため児童が持ちやすい、変形・破損がしにくい利点、ただし、食器更新の周期は5～6年。強化磁器食器は暖かみがあり、美味しいと感じる、また、破損等による追加補充で済む利点がある事や低学年の配膳は工夫により対応可能である事等が分かりました。



玄海町値賀小学校給食の配膳の様子

産業建設常任委員会 行政視察研修

去る8月9日・10日にかけて九州電力の「メガソーラー大牟田発電所」、九州農政局にて「農業農村整備事業の現状」「佐賀平野クリーク整備」について、又上益城郡山都町の「水力発電」について視察研修を行いました。

始めに大規模「メガソーラー発電」は、平成22年11月運転開始、敷地面積8万平方メートル、太陽電池パネル1万4千枚設置、最大発電量は1日当たり3千キロワット、天候に左右され発電コストが高い。更なる技術革新が必要と思われます。

次に、九州農政局にて平成23年度「農業、農村整備事業」の公共事業予算、又、戸別所得補償等の非公共事業予算の説明と、佐賀平野クリーク整備の説明を受けました。当委員会として食料の安定供給又、地域環境保全等の多面的機能が發揮され

る財源確保と地域にあった施策展開を要望しました。

最後に山都町の「小水力発電」は、一級河川緑川の砂防ダムより取水し、年間発電量952メガワット、総事業費2億7千万円環境保全のメリットは高い。新エネルギーへの期待は高いが課題も多く、導入には調査研究が必要と認識しました。



産業建設常任委員会視察研修の様子